

# 株式会社テラプローブ 決算説明資料

2021年12月期

# 2021年12月期 業績説明

本資料では、増減率について、1,000%を超える場合や、  
比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合、  
原則として「-」と表示しています。

Copyright© 2022 Tera Probe, Inc. All Rights Reserved.

## 2021年12月期 業績サマリー

	CY2021		QoQ		(億円)			
	3Q	4Q	増減額	増減率	CY2020	CY2021	増減額	増減率
売上高	66.9	74.4	+7.4	+11%	183.4	259.4	+76.0	+41%
営業利益	11.7	13.9	+2.2	+19%	4.3	41.6	+37.3	+870%
営業利益率	17.5%	18.7%	+1.2pt		2.3%	16.0%	+13.7pt	
経常利益	11.7	14.0	+2.2	+19%	1.6	40.9	+39.2	-
経常利益率	17.5%	18.8%	+1.2pt		0.9%	15.8%	+14.9pt	
特別利益	0.7	0.0	△0.6	△99%	10.6	4.1	△6.5	△61%
特別損失	0.1	0.2	+0.0	+15%	4.8	1.0	△3.8	△79%
税金等調整前純利益	12.3	13.8	+1.6	+13%	7.4	44.0	+36.6	+495%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4.9	5.4	+0.5	+11%	2.4	17.9	+15.6	+652%
純利益率	7.3%	7.3%	0.0pt		1.3%	6.9%	+5.6pt	
US\$	109.76	112.49			107.24	108.91		
NT\$	3.88	3.94			3.63	3.94		

○ 売上高： ロジック製品(車載向け、フラッシュメモリコントローラなどの)  
受託増と、それに対応した新規投資設備分の寄与  
→ メモリ製品の需要減あるも、全体として増加

○ 営業利益、経常利益、純利益： 売上高の増加に伴い、いずれも増加

○ 売上高、営業利益、経常利益、純利益とも増加：  
車載向け等ロジック製品の受託回復と好調維持  
PTI※からの事業譲受分寄与、等

※Powertech Technology Inc.

### 表左側： 第3四半期と第4四半期の比較

売上高： 11%増加 (創業以来最大)

ロジック製品における、

車載向けやフラッシュメモリコントローラなどの受託量増加

損益：売上高の増加に伴い、営業、経常、純利益のいずれも増加

### 表右側： 年間での前年との比較

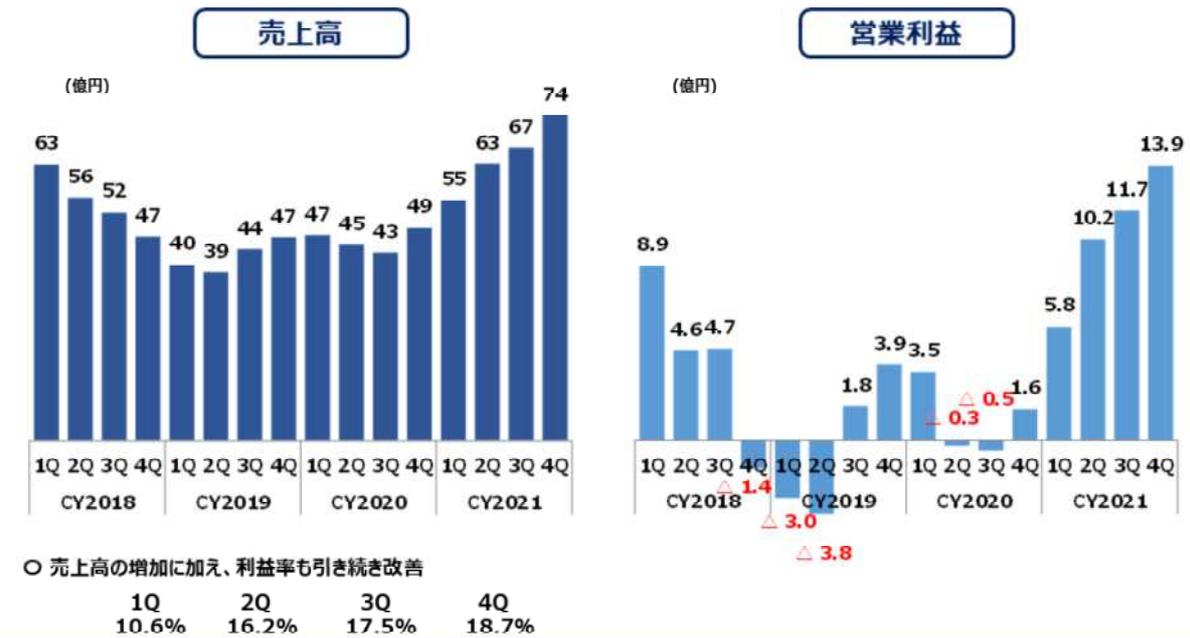
売上高： 41%増加 (創業以来最大)

貿易摩擦の影響と思われる受託量の減少を上回る、

車載向けをはじめとするロジック製品の受託量増加 など

損益：年間比較においても、営業、経常、純利益のいずれも増加

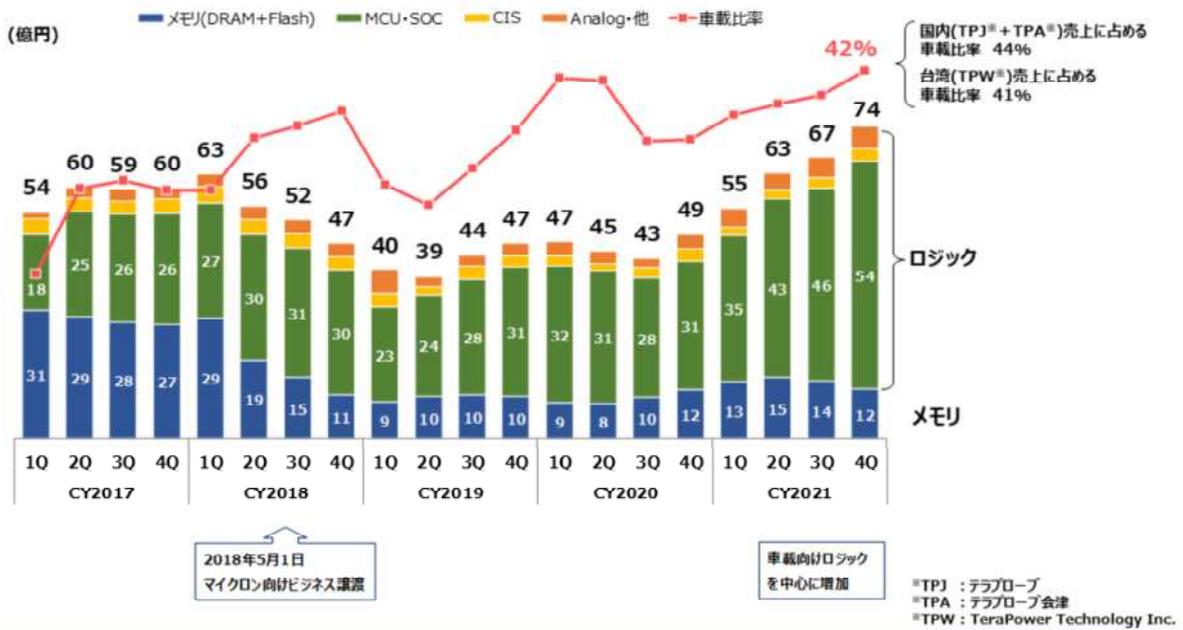
## ▶ 連結売上高・営業利益の推移



・売上高の増加に伴い、営業利益増加

・稼働維持と、設備投資分の寄与により営業利益率も向上

## ▶ 連結売上高推移（製品別）



### 製品別

メモリ製品の若干減少に対し、ロジック製品が大きく増加

### 車載比率

40%超え

地域別車載比率も目標値に近い水準

日本 44% (目標値: 50%)

台湾 41% ( " : 40%)

## 2021年12月期 キャッシュフロー 財政状態

キャッシュフロー	CY2021	CY2021	QoQ		CY2020	CY2021	YoY	
	7~9月	9~12月	増減額	増減率			増減額	増減率
営業CF	29	35	+6	+19%	97	114	+17	+18%
投資CF	△34	△33	+1	-	△54	△97	△43	-
FCF	△4	2	+7	-	43	18	△26	△59%
財務CF	△0	△7	△7	-	△30	△20	+10	-

バランスシート	CY2021	CY2021	QoQ		CY2020	CY2021	YoY	
	9月	12月	増減額	増減率	12月	12月	増減額	増減率
現預金	116	112	△3	△3%	111	112	+1	+1%
有形固定資産	392	404	+12	+3%	371	404	+32	+9%
その他資産	97	114	+17	+17%	65	114	+49	+75%
総資産	605	630	+25	+4%	547	630	+82	+15%
有利子負債*	195	195	△0	△0%	194	195	+1	+1%
その他負債	61	69	+8	+13%	43	69	+26	+59%
純資産	348	366	+18	+5%	310	366	+55	+18%

\*有利子負債=借入金+リース債務

- FCFプラスを回復
- 健全な財務体質を維持

- 累計FCFプラスを維持

### キャッシュフロー

四半期 : フリーキャッシュフローのプラス回復

年間 : フリーキャッシュフローのプラスを維持

(設備投資のコントロールと業績の回復)

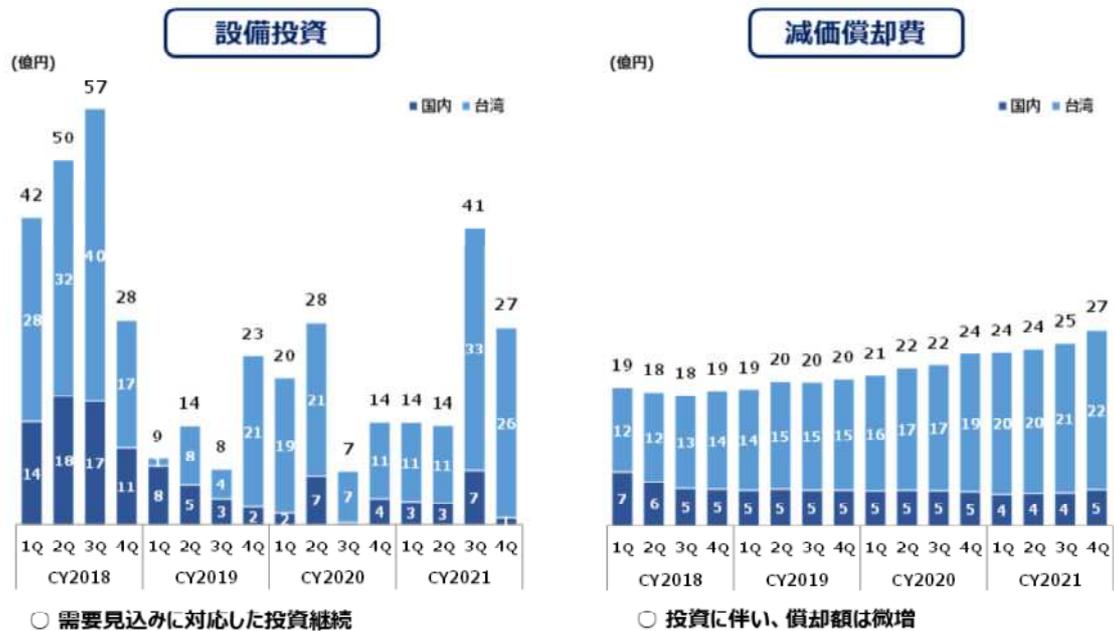
### 主要B/S項目

事業リスクを吸収しつつ、投資を継続できる財務体質を維持・強化

	2020/12	2021/9	2021/12
自己資本比率	42.5%	41.8%	41.6%
D/Eレシオ(※)	0.35	0.32	0.32

※ : (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

## 設備投資及び減価償却費



### 設備投資

検収ベースで計上

- 半導体不足により設備納期が長期化する環境下、顧客及びベンダーとのパートナーシップにより、ほぼ計画通りに投資を実行  
→ 売上高、利益及び利益率の改善に寄与

# 2022年12月期 上半期 業績予想

本資料の2022年度連結業績予想値は、  
「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等の適用後の数値であり、  
対前四半期比、対前年同期比の増減額、増減比率は参考値として記載しております。

## 2022年12月期 第1四半期、第2四半期業績予想

	CY2021		CY2022		QoQ		QoQ	
	4Q	1Q	増減額	増減率	1Q	2Q	増減額	増減率
売上高	74.4	74.5	+0.1	0%	74.5	75.5	+1.0	+1%
営業利益	13.9	13.9	0.0	0%	13.9	14.5	+0.6	+4%
営業利益率	18.7%	18.7%	0.0pt		18.7%	19.2%	+0.5pt	
経常利益	14.0	13.6	△0.4	△3%	13.6	14.1	+0.5	+4%
経常利益率	18.8%	18.3%	△0.5pt		18.3%	18.7%	+0.4pt	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5.4	4.8	△0.6	△12%	4.8	4.1	△0.7	△15%
純利益率	7.3%	6.4%	△0.9pt		6.4%	5.4%	△1.0pt	
US\$	112.49	111.45			111.45	110.00		
NT\$	3.94	4.00			4.00	4.00		

- 売上高：ほぼ横ばい（ロジック製品の分野ごとに方向の差）  
車載向け、5G基地局向け、フラッシュメモリコントローラなど  
ディスプレイコントローラ
- 営業利益、経常利益：ほぼ横ばい
- 純利益：法人税等調整額の影響がなくなることなどから、減少

- 売上高：増加（ロジック製品受託量増加）
- 営業利益、経常利益：  
売上高の増加に伴い、いずれも増加
- 純利益：会津集約に伴う事業構造改善費用の発生により減少

### 表左側：第4四半期と第1四半期の比較

売上高：ほぼ横ばい

- ① 車載向けや5G基地局向け及びフラッシュメモリコントローラなどの受託量増加
- ② ディスプレイコントローラの受託量減少

損益：営業利益、経常利益、ほぼ横ばい

純利益、若干減（法人税等調整額などの一時的要因の消滅）

### 表右側：第1四半期と第2四半期の比較

売上高：増加

- ① 生産・在庫調整のリスクに留意
- ② 車載向けや5G基地局向け及びフラッシュメモリコントローラなどの受託量増加

損益：営業利益、経常利益、増加

純利益、若干減

（テラプローブ会津の事業終了に伴う事業構造改善費用計上）

## 2022年12月期 上半期 業績予想

(億円)

	CY2021	CY2022	YoY	
	2Q累計	2Q累計	増減額	増減率
売上高	118.1	150.0	+31.9	+27%
営業利益	16.0	28.4	+12.4	+77%
営業利益率	13.6%	18.9%	+5.3pt	
経常利益	15.2	27.7	+12.5	+83%
経常利益率	12.8%	18.5%	+5.6pt	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7.6	8.9	+1.3	+17%
純利益率	6.5%	5.9%	△0.5pt	
US\$	106.67	110.69		
NT\$	3.85	4.00		

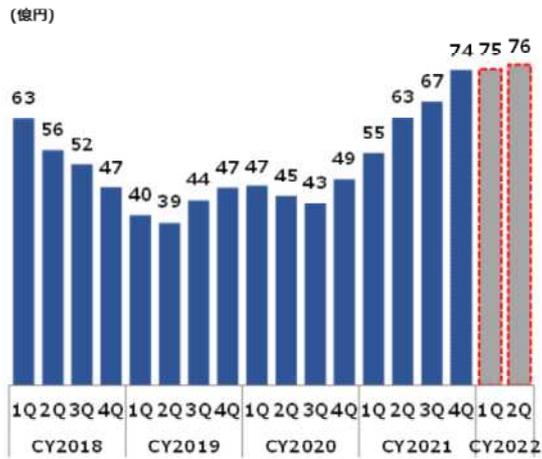
上半期合計の前年との比較

売上高： 27%増加

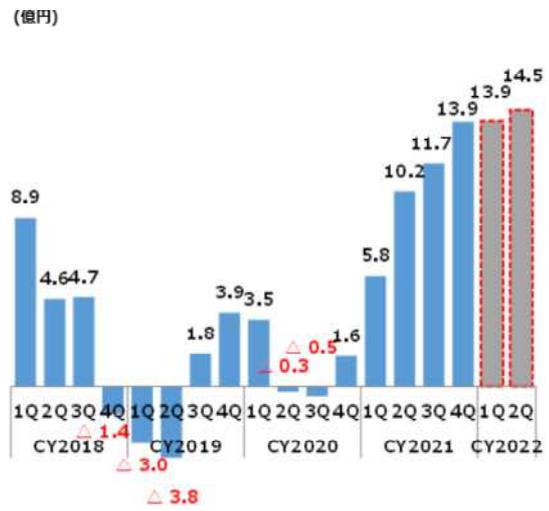
損益： 売上高の増加に伴い、営業、経常、純利益のいずれも増加

売上高、営業利益予想

売上高

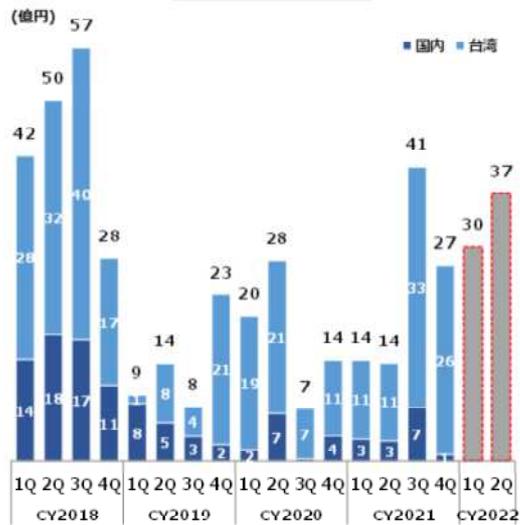


営業利益



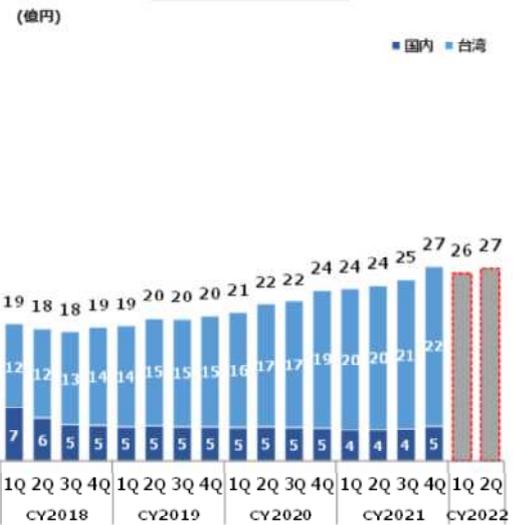
## 設備投資及び減価償却費

### 設備投資



○ 需要見込みに対応し増加

### 減価償却費



○ 償却額は微増

### 設備投資

→ 需要動向を見きわめながら、戦略分野に対する投資を継続

### 減価償却費

→ 既存設備の償却終了もあり、ほぼ横ばいで推移

# トピックス

## ▶ 2022年12月期の事業方針

### 1. 安定的な収益構造の構築・強化

#### ① 車載比率: 国内 50%、台湾 40%

数量の増加が見込まれ、  
高品質・高信頼性が  
要求される車載分野

当社の実績・経験を  
活かす AI、5G及び  
センサなどの先端製品

両分野のバランスの取れた受託による継続成長

#### ② ファイナルテストビジネスの拡大、強化: 売上高比率 20%

地政学的リスクやBCP  
⇒ サプライチェーン  
見直しの動き

ウエハテスト中心の成長  
⇒ PTIグループとの連携による  
さらなる成長機会

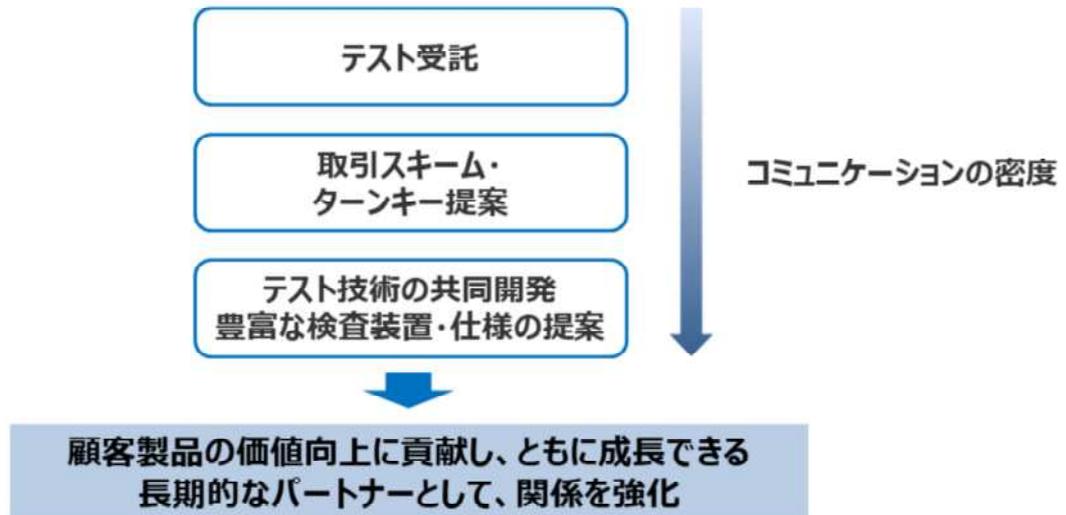
国内・台湾ともに、ファイナルテストビジネスを強化

- ・ 中長期的な業界の見通しを踏まえた、大枠の方針については、大きな見直しなし
- ・ 最近の外部環境や、当社自身の事業構造の進展」踏まえて、今期、特に注力すべきポイントを見直し

⇒ さらなる成長機会を確保

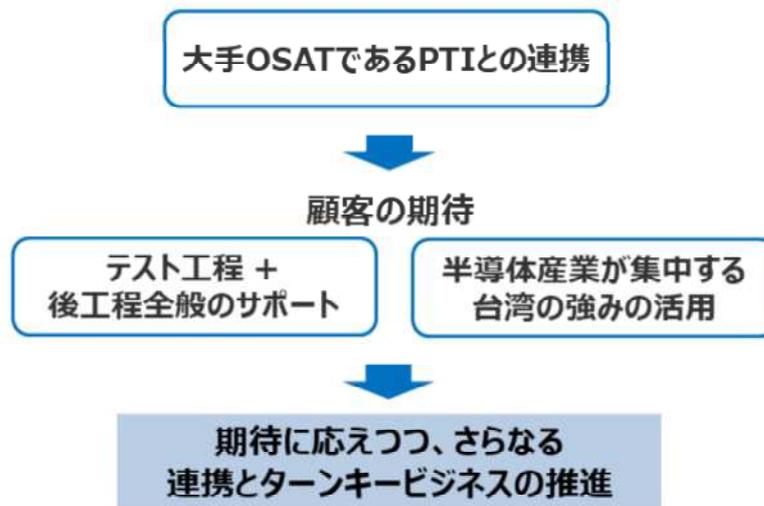
## ▶ 2022年12月期の事業方針（続き）

### 2. ビジネスパートナーとして、主要顧客との更なる関係深化

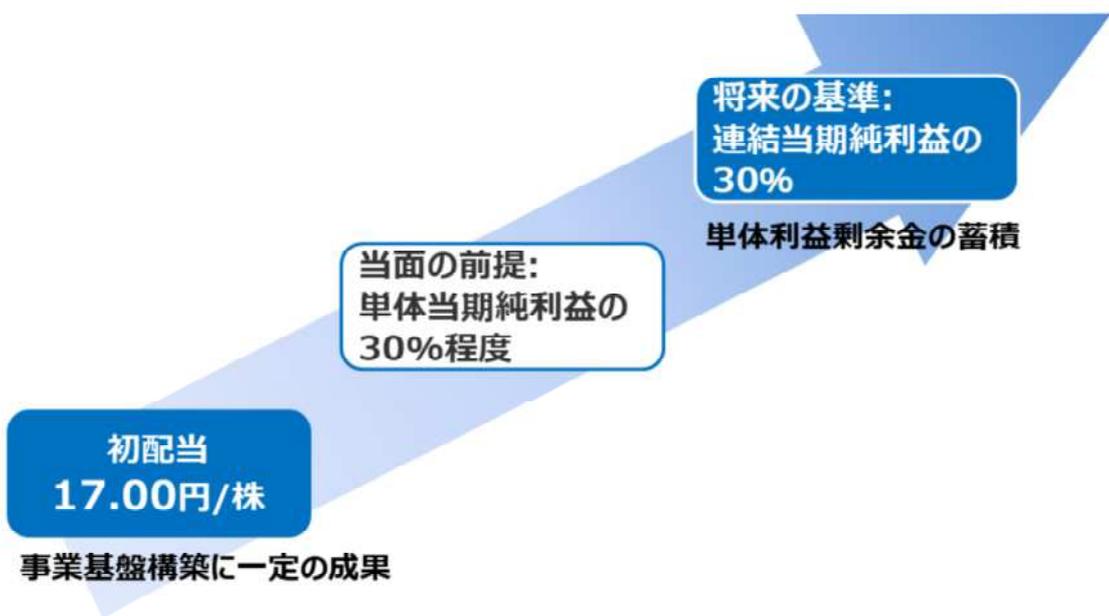


## ▶ 2022年12月期の事業方針（続き）

### 3. PTIグループとの連携によるターンキービジネスのさらなる推進



## ▶ 配当開始と、今後の還元方針



2021年12月期

一定の事業基盤と「配当の原資」を有する状況

→ 1株17円で、期末配当を開始

今後の配当額、配当性向

→ 当面は、単体の「当期純利益の30%程度」

→ 蓄積ができた後は、「連結純利益の30%」を基準

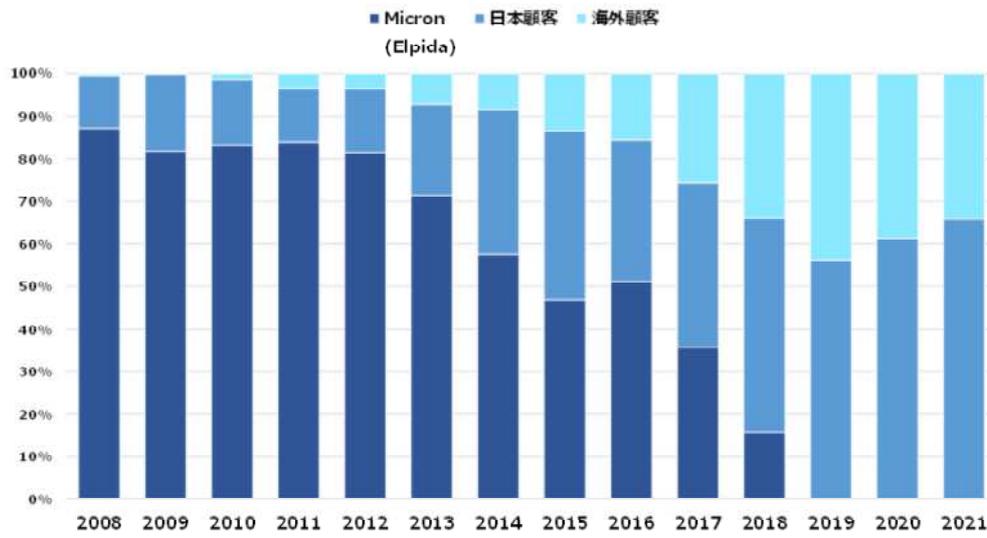
株主優待（QUOカード贈呈）の廃止

→ 公平な利益還元という観点から、今回の3月送付分をもって廃止

継続的に2021年12月期以上の還元ができるよう、業績向上に注力

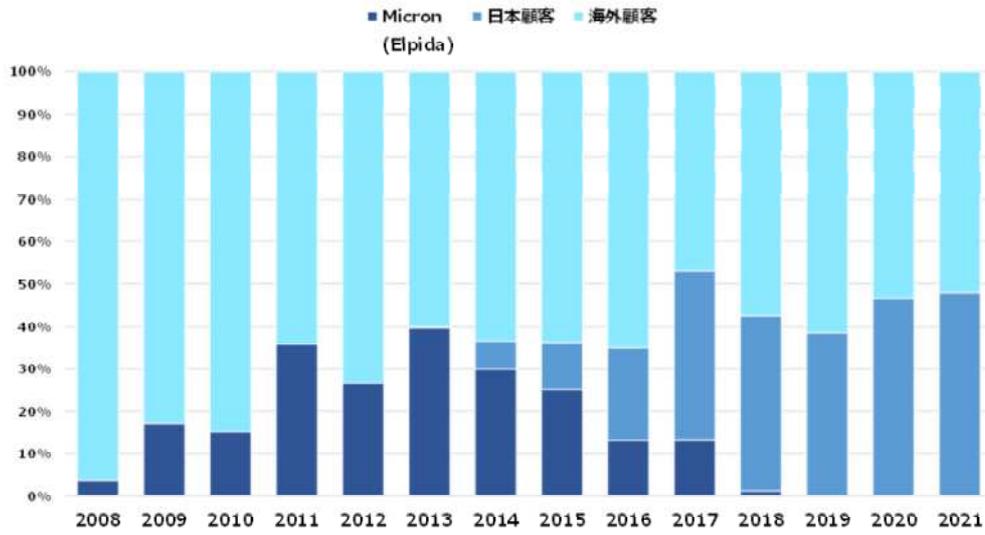
# Appendix

## ▶ 顧客国別 売上高構成比 (TPJ & TPA)



TPJ: テラプローブ  
TPA: テラプローブ会津

## ▶ 顧客国別 売上高構成比 (TPW)



TPW: TeraPower Technology Inc.

## ▶ アプリケーション別売上高推移

(億円)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
産業・医療	6.0	6.8	9.3	10.3	12.3	21.1
車載	28.8	52.3	73.5	52.5	68.8	101.6
コンシューマ	153.1	119.4	129.0	98.4	98.7	133.7
他			5.7	7.8	3.6	3.0
計	187.9	178.5	217.4	169.1	183.4	259.4

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
産業・医療	3%	4%	4%	6%	7%	8%
車載	15%	29%	34%	31%	38%	39%
コンシューマ	81%	67%	59%	58%	54%	52%
他			3%	5%	2%	1%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

## 本資料における注意事項等

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社テラプローブ（以下、弊社）の現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料の一部には監査法人の監査やレビューの対象外の内容が含まれております。
- 本資料に記載された内容は、発表時点において一般に認識されている経済社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 投資を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社テラプローブ 財務部

TEL: 045-476-5711

E-mail: [ir@teraprobe.com](mailto:ir@teraprobe.com)

URL <https://www.teraprobe.com/>